

課題曲演奏の注意事項 (2023/5/10 改訂)

1. 課題曲のスコアに記載された、オプションを除く全てのパートが揃っている団体は、いかなる変更も認めません。

(注)楽器の調性が指定されている場合は、その調性の楽器を使用してください。
指定がない場合、調性は問いません。

例) チューバの調性 (E♭管、B♭管、C管等) は自由。

クラリネットやトランペットは記載された調性どおり。

2. オプションを除くパートに不足がある場合

(1) オプションを除く全てのパートが揃わない団体は、不足のパートについて課題曲のスコアに記載のある楽器 (含オプション) によって代替することを認めます。

(2) パートの代替を行う場合は「作曲者の意図」「作品の書法や個性」を損なわないよう、十分配慮してください。

3. 指定された楽器がない場合

指定された楽器がない場合は以下に示す代替を認めます。ただし、一部分だけ代替することは認めません。また、課題曲と自由曲の両方を同じ楽器で演奏しなければなりません。

(1) トランペットをコルネットで演奏する。

(2) ホルンをメロフォン又は、アルトホルンで演奏する。

(3) ユーフォニアムをバリトンで演奏する。

4. Solo 及び、1 player の扱いについて

Solo や 1 player の指示がある部分を 1 人で演奏することが困難な場合は、複数の奏者 (同一楽器) で分けて演奏しても構いません。ただし、同時に演奏している奏者は必ず 1 名です。

●2023 年度全日本吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ『レトロ』楽譜中の「with feel」について

1. Trp. や A.Sax. の「with feel」

書き譜のフレーズを踏襲した「フェイク」演奏をすること。

フェイク演奏とは、リズムを少し変えたり、装飾音をいれたりすることで、アドリブのように全く違うフレーズを演奏することはしない。もちろんフェイクをせず、楽譜通り正確に演奏しても構わない。

2. Drum set の「with feel」

フィル・インなどを変更しても良い。ただ、そのフィル・インも3場面それぞれのスタイルに合わせる。

3. コンガの「with feel」

楽譜の基本パターンに従いつつ、時々パターンを変更する所謂「オカズ」などを入れる。